

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

皮膚科の臨床 (1991.04) 33巻4号:604～605.

皮疹を偏側にのみ認めた色素失調症の1例

坂井博之, 飯塚 一, 岸山和敬

Mini-Report

皮疹を偏側にのみ認めた色素失調症の1例

坂井博之* 飯塚 一* 岸山和敬**

症 例：9カ月，女児

初 診：1989年11月2日

主 訴：左上下肢の皮疹

家族歴：姉が2人いるが正常児であり，家族歴に特記すべきことを認めない。

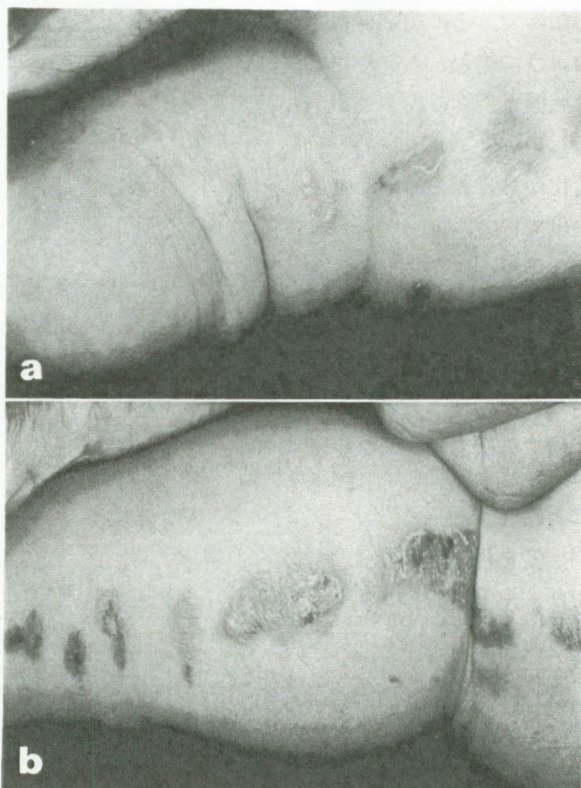
既往歴：母親は妊娠経過中とくに異常なく，患児は満期正常分娩にて生まれる。その後の発育は正常。

現病歴：生後4日目に左上腕と左膝窩部に小水疱が出現し，鱗屑を伴う紅色の皮疹に変化しながら，下肢では徐々に線状に拡大してきた。近医で治療を受け一部で改善がみられたが，完全には良くならないため北見赤十字病院皮膚科を受診した。

現 症：左下肢後面に，線状に配列する皮疹が認められる。アキレス腱部においては，半米粒大までの緊満性小水疱が少数，疱疹状に集簇している（第1図：a）。下腿の下方では表面に糜爛を伴う淡紅褐色の丘疹および小局面があるが，下腿の上方では母指頭大の紫紅褐色の不規則形角化性局面が認められる（第1図：b）。さらに大腿後面には爪甲大までの表面にわずかに鱗屑が付着した灰褐色局面ないし丘疹が認められる。また，左側腹部と左上腕内側には少数の線状の淡い灰褐色色素斑が散在している。

臨床検査成績：とくに異常はなく，末梢血中の好酸球上昇も認めない。

組織学的所見：アキレス腱部の小水疱および下腿後面の局面より生検。小水疱は表皮内単房性水疱で，内部に少数の好中球を混じているが好酸球は認められない。水疱周辺の真皮に軽度の単核細胞浸潤を伴い，また色素失調も認められる（第2図：a）。局面におい



第1図 a：アキレス腱部の緊満性小水疱
b：下腿の紫紅褐色角化性局面

ては，角質増生と表皮の不規則な肥厚を示している。表皮中下層を中心に多数の特徴的な異常角化細胞が認められ，表皮上層ではそれらは融合し錯角化を伴う角層に連続している。基底細胞層は所々に空胞化し，表皮真皮の境界が不明瞭となっている。真皮上層にメラノファージが散在し，そのほかにリンパ球様単核細胞を中心とする細胞浸潤を認める（第2図：b）。

治療および経過：色素失調症と診断し，神経学的および眼科的検査を行なったが，とくに合併奇形や発達異常は認められなかった。痒痒を伴うため抗ヒスタミン剤や mild なステロイド外用剤などを投与し経過を観察中である。初診9カ月後においては一部に疣贅状

* Hiroyuki SAKAI & Hajime IIZUKA, 旭川医科大学，皮膚科学教室（主任：飯塚 一教授）

** Kazunori KISHIYAMA, 北見赤十字病院，皮膚科，部長

〔別刷請求先〕 坂井博之：旭川医科大学皮膚科
（〒078 旭川市西神楽4線5号3番地の11）

皮疹が認められるが、丘疹、局面はほぼ完全に平坦化し、灰青褐色の色素斑の状態を呈している。

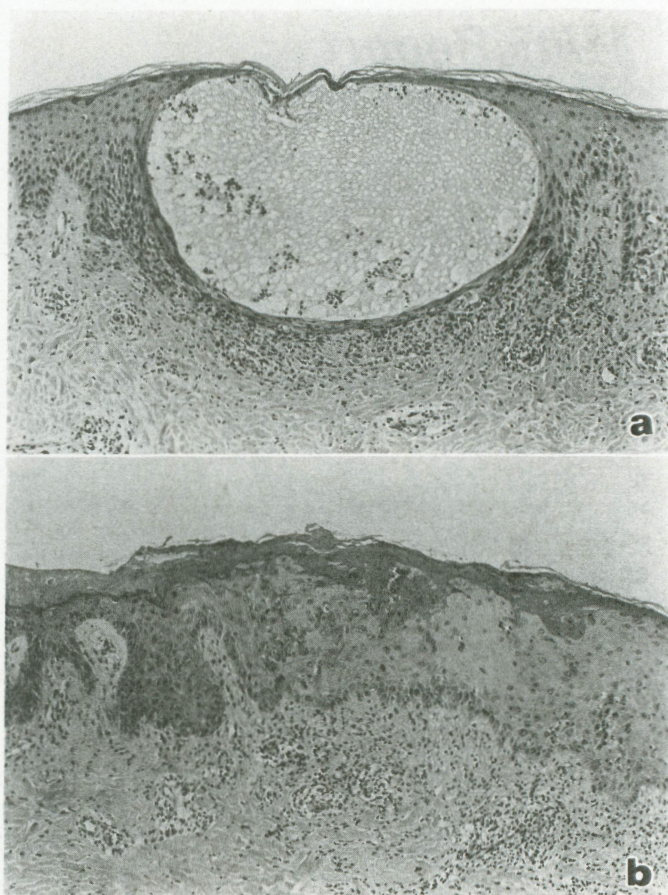
考 按

一般に色素失調症は炎症期から消退期までの4期に分けられ、臨床経過と特徴的な皮疹の配列から診断は容易である¹⁾²⁾。また、皮疹発生部位は85%が軀幹、四肢にわたる³⁾。しかし、本症例のごとく偏側性にのみ皮疹が存在する報告も散見され、このような場合、軽症例とされるが、痙攣発作を伴った症例の報告もあり一概にはいえないようである^{4)~7)}。このような症例で第2期の疣状苔癬様皮疹が主体に認められる場合は、乳幼児期に生じ潮紅を伴った角化性皮疹が線状に配列する疾患との鑑別を要する(第1表)。頻度的には表皮母斑、線状苔癬などが多く、その他の疾患は比較的まれといえる⁸⁾。さらに尋常性乾癬などケブネル現象により皮疹が線状に誘発される場合もあり、確定診断にあたっては組織学的検索が不可欠である。色素失調症は皮疹そのものは自然消退をきたすが、神経学的、眼科的合併症を高頻度に伴い¹⁾²⁾、疾患の予後を考えるうえで十分な検討が必要と思われる。本症例は皮疹の状態からは線状扁平苔癬との鑑別が困難であったが、組織学的には表皮内水疱、また表皮中上層まで認められる多数の特徴的な異常角化細胞が存在し、これらの所見は扁平苔癬では認めず、色素失調症と診断した。また、本症例では水疱中に好酸球を認めなかったが、時期的に色素沈着期に移行していく過程にあると考えられ、通常、この時期では末血および組織中の好酸球増多は正常に復しているためと考えられた³⁾。

(1990年8月2日受理)

文 献

- 1) 畑 清一郎：現代皮膚科学大系，1版，11巻，山村雄一ほか編，中山書店，1982，283-288頁
- 2) Carney RG：Arch Dermatol，112：535-542，1976
- 3) 小川秀興：皮膚臨床，24：311-316，1982



第2図 a：小水疱の組織像：表皮内単房性水疱
b：角化性局面の組織像：多数の異常角化細胞を認める。

第1表 色素失調症(軽症例)の鑑別疾患

Lichen planus linealis
Lichen striatus
Linear epidermal nevus
Linear porokeratosis
Angiokeratoma naeviforme

- 4) 北村清隆, 石倉多美子：日皮会誌，82：332，1972
- 5) 藤田 慎：日皮会誌，84：305，1974
- 6) 佐藤壯彦ほか：日皮会誌，88：743，1978
- 7) 並崎礼子, 藤原邦彦：日皮会誌，90：742，1980
- 8) Cheuk WY et al：J Am Acad Dermatol，4：412-416，1981